

満蒙開拓青少年義勇隊

—この岐阜の地からも、多くの
青少年が満州に、戦地に—

岐阜公園の北部に日中友好庭園があります。この庭園には、岐阜・杭州友好盟約記念碑などの他に、満蒙開拓青少年義勇隊関係の三つの石碑が立っています。一つは、昭和16年(1941)美濃地方の若人で編成された栗田中隊の碑、一つは、昭和18年(1943)の横山中隊、そして昭和19年(1944)の田中中隊の石碑です。いずれも、生き残った人々が異国の土と化した亡友の冥福を祈り、その拓魂を後世に残そうと建立されたものです。「満蒙開拓青少年義勇隊」とは何でしょう。70年、80年前、多くの若者たちがなぜ満州の地に開拓に行ったのでしょうか。

1. 満蒙開拓・日中戦争への道

昭和初期の世界恐慌の影響は深刻で、特に農村住民の生活は困窮を極めていました。さらに産業の不振は



義勇隊栗田中隊の石碑

失業者を増加させ、小作争議が頻発するなど、社会情勢は悪化の傾向を示していました。そんな中、日本政府と軍部は、不況脱出の突破口を大陸侵略に求めようとした。

昭和6年(1931)の満州事変、そして昭和7年(1932)の満州国建国を契機に満州国への移民が本格化し、「五族協和・王道楽土」などをスローガンにキャンペーンが大々的に行われました。それは、「日本の天皇制のもとで、日本民族、漢民族、朝鮮民族、満州民族、蒙古(モンゴル)民族の五つの民族がともに暮らそう」とするものでした。その中核が「満蒙開拓移民団」です。

<岐阜県の郷土中隊(県内出身者だけで編成)一覧表>

年 度	中隊名 指導者	隊員数(主な出身地など) ・内原訓練所入所日
昭和15年 (1940)	藤田中隊 藤田他4名	隊員230名(全県) ・15年5月1日入所
昭和16年 (1941)	栗田中隊 栗田他4名	隊員235名(飛騨・東濃など) ・16年3月7日入所
昭和16年 (1941)	栗田中隊 栗田他4名	隊員231名(岐阜・西濃など) ・16年3月8日入所
昭和17年 (1942)	伊藤中隊 伊藤他4名	隊員312名(全県) ・17年3月5日入所
昭和18年 (1943)	横山中隊 横山他4名	隊員267名(全県) ・18年3月4日入所
昭和19年 (1944)	田中中隊 田中他4名	隊員241名(全県) ・19年3月15日入所
昭和20年 (1945)	松永中隊 松永他4名	隊員240名(全県) ・20年3月21日入所

—「岐阜県満蒙開拓史」p.478より—

策に私達少年は何ら知る術もなく、ただ「五族協和・王道楽土」建設の旗をかざし、将来は十町歩の地主になることを夢見て勇躍渡満した。後に続く苦難の道など誰一人知るよしもなかった。

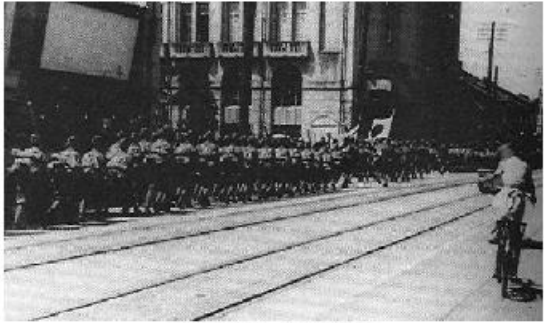
3月までに中隊が編成され、7日岐阜県庁で結団式。そして送団の壮行会が主として岐阜市公会堂(現在の岐阜市民会館)で行われました。知事の壮行の辞、来賓の祝辞などを受け、伊奈波神社で前途多幸を祈念。市中行進で岐阜駅へ、そして茨城県「内原訓練所」に向かいました。

(2) 郷土訪問、家族との別れ

(昭和16年6月2日~3日)
義勇隊に入った少年らは「内原訓練所」で2ヶ月間の訓練を受けた後、家族との最後の別れのために岐阜へ



県庁前で結団



郷土訪問、市中行進



農作業風景

開拓移民団の入植地の確保に当たっては、まず「匪情悪化」(盗賊などが襲ってくる)を理由に、既存の地元農民が開墾している土地を「集人地帯」に指定し、新たに設定した「集人部落」に強制移住させるというものでした。そして、満州拓殖公社がこれらの「無人地帯」を強制的に買い上げ、日本人開拓移民を入植させる政策が行われたのです。

現地農民の殆どが、強制移住に抵抗したため「匪賊」の対象とされ、これを抑えるため関東軍(満州に駐留した旧日本陸軍の部隊)が出動しました。そして満州移民は「軍隊と連携して満州国の治安維持を担う自



衛移民」とされ、軍隊に準じた編成で武器を装備していたのです。その後、昭和11年(1936)、日滿両政府は「20万人100万戸」の大量開拓計画を立て、実施に着手し2万人の家族移住者を、昭和13年(1938)から昭和17年(1942)の間には20万人の農業青年を、それぞれ送り込みました。

岐阜県からは、昭和11年(1936)以後38回、延べ9600人ほどもあり、全国で7番目でした。戦局の悪化や拡大による兵力動員で、昭和15年(1940)頃からは成人男性の入植が困難となり、14歳から18歳ほどの少年で組織された「満蒙開拓青少年義勇隊」が主軸となっていきました。

2. 岐阜県における青少年義勇隊

岐阜県における満蒙開拓青少年義勇隊の送出は、昭和14年(1939)が最初で、他県出身者と一緒に編成されたのは、合計923人でした。そして岐阜県だけで編成した郷土



岐阜駅から出発

州北部の入植地に入ったのです。

ところが戦況は悪化。ほとんどの隊員は「現地召集」により北へ南へと散っていきましました。ソ連の参戦後も、残った者は開拓団を守りました。

敗戦後、開拓団は毎日のように襲撃を受け、次々と傷つき倒れていきました。ソ連軍の俘虏となってシベリアへ連行され、寒さと栄養不良、そして強制労働などにより大勢の隊員が亡くなりました。

岐阜県郷土中隊7隊全体では約230人が死亡され、生きて日本に帰ることはできませんでした。

その他にも、満州開拓に参加した岐阜県人は全部で約1万人にものぼりましたが、未だ4千人ほどが未帰還の状態です。戦死されたり現地で死亡されたりしたのでしょか。

○この文章は、「岐阜県満蒙開拓史」「岐阜県史・通史編・近代上」「満州開拓第四次義勇隊・青春の追憶」「岐阜県教育史」などをもとに、後藤征夫がまとめました。

岐阜市歴史博物館ボランティア

「お話・岐阜の歴史サークル」

代表 後藤 征夫

http://bookgeocities.jp/gifukeys/eksitop.htm

TEL 058-231-6726